

地域と官民連携による駅舎再生（滋賀県日野町） 一般社団法人こうけん舎

町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト

概要

- 定期利用者の減少、老朽化による駅舎の解体・簡易官舎への建て替えが検討される中、住民から解体反対の声が相次ぎ、町の玄関口である日野駅駅舎を「まちの宝」として再生。
- 費用の57%を地元の住民が負担、土地も地元の村が買収した上で近江鉄道に寄付。
- 駅舎内にコミュニティスペース観光案内交流施設「なないろ」の設置。
（運営：一般社団法人こうけん舎・日野観光協会）
「日替わり店長システム」で楽しいイベントや美味しい食事を提供するお店、楽しくくつろげるカフェを日替わり開催。



類似点・参考点

- レトロな駅舎として存続するも定期利用者は減少し、ローカル鉄道の現状は厳しい。
- 駅をまちづくりの新たな拠点として、交流が目的なら誰でも利用可能な交流施設を設置。
- 「なないろ」は、地元住民で結成した一般社団法人が運営。起業を考えている人、ネットワークを広げたい人、自分の自己表現の場を持ちたいと考える人達のための場として、解放・維持・発展させていくことを目的としている。
- 地元の高校生も「商品開発販売実習」の一環として、月1回「日野高校生カフェ@Home」を開催し、駅舎活性化に貢献。

今後の考察

- 駅舎が駅の利用者や町民が一息つける憩いの場とするのであれば、調理飲食設備や駅舎設備を整え、カフェやイベントスペースとして提供することが有効。
- 観光や人々の交流の創出を活性化するうえで、定期的な固定イベントも盛り込み、町の魅力を発信できる方法を模索する必要がある。運営管理も効率的な仕組み（日替わり店長システム）を導入。

出典：一般社団法人こうけん舎 <https://nanairo.space>
参考：地域づくり 平成30年9月号

1

全国初の町民駅プロジェクト（山形県東置賜郡） 特定非営利活動法人えき・まちネットこまつ

町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト

概要

- 大正15年に米坂線が開通し羽前小松駅が開設、昭和56年に国鉄が町の玄関口ともいえるこの駅の無人化計画を発表。
- 多くの町民が「灯りを消すなまちの駅」をスローガンに無人化阻止運動を展開。その結果、町が国鉄から委託を受け、駅の管理運営は「羽前小松駅業務管理組合」による全国初の「町民駅」としてスタート。
- 平成22年3月末で「羽前小松駅業務管理組合」は解散となり、新たに「えき・まちネットこまつ」が、駅業務と共にまちづくり事業を行うことになる。



類似点・参考点

- 近年の交通事情の変化や少子化による通勤・通学生の減少等により駅利用者が減少。
- JRからの乗車券販売手数料が減少していることから、町の財政負担増が続き、今の形で運営を継続することは極めて困難な状況。
- 「えき・まちネットこまつ」の特徴は、会員（有料）を募って駅を利用した事業（イベント等）の企画や運営に参加。
- 駅機能だけでなく、町の玄関口・コミュニティ機能・まちの窓口機能・地場製品の販売機能を担うと共に、地域住民の教養向上や生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与など、行政、学校を含む多種多様な団体等との協働を推進するまちづくりの広域的展開を目的としている。
- 山形県立置賜農業高等学校の学習グループ「えき・まち活性化プロジェクト」も活動報告や情報を発信。

今後の考察

- お金を生み出さない施設を運営していくために、有料会員制度を導入。
- 世代を超えたにぎわいの場となるよう、地元高校の情報発信力なども有効に活用して地域内の交流を重点的に展開している好事例。

出典：特定非営利活動法人えき・まちネットこまつ <http://www.npo-ekimachi.org/>

2

エリアマネジメント型まちづくり（神奈川県茅ヶ崎市） 特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎

町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト

概要

- 神奈川県内最大級の浜見平団地建替えに伴い、2022年頃まで茅ヶ崎市南西部地域の開発が進む。
- エリアマネジメントをテーマした多世代が交流できる機会や場をつくるため、市民・自治会・商店会・NPO・学校・事業者・行政等が連携して活動を展開し、地域の人や組織が地域の課題を解決できるようエンパワメント・コーディネート・マッチングを行っている。



類似点・参考点

- 特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎が会員（正会員・賛助会員）を募り、まちづくりを運営。
- 「まちスポ茅ヶ崎」、BRANCH茅ヶ崎2階デッキ、「まちスポ茅ヶ崎・サンノイチ」の3つのスペースを提供し、人々の交流促進を支援。
- 毎月1日に「まちぼっち通信」発行、まちの情報提供。
- 地域経済の活性化に取り組んだマルシェの開催や、「しろやまコミュニティ会議」を定期開催し、地域の情報共有や課題解決に向けた具体的な取組などを検討、実行。会議には民間事業者・市民、行政などが参加。
- 地域の定期清掃への参加や、防災イベントの実施といった暮らしにかかわる支援を行う。
- まちづくりコーディネーターの育成や多岐にわたる取組で、まち全体をコーディネートしている。

今後の考察

- まちをトータルコーディネートする役割を担う存在。
- 行政と民間が効果的に連携し、地域の交流スポット・発信拠点として機能的に活動している。

出典：特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎 <http://machispo-chigasaki.com/>

3

誰もがほっとできるまちづくり（栃木県真岡市） 行政主体運営⇒運営自治会委託輪番制

町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト

概要

- 高齢化が進んだ駅前の空き店舗を改装し、健康を目指したまちづくりとして平成26年に「まちなか保健室ほっとステーション」を開室、平成28年には2号館がオープン。
- 「訪れた人が気軽に立ち寄り、自分の健康を振り返り、明日はもっと健康になれる場所」をコンセプトに市が設立。
- ベビースケール（赤ちゃん用体重計）や授乳・おむつ替えスペースも用意し、「赤ちゃんの駅」としても利用できる。
- 訪れた人が気軽に健康チェックをしたり、保健師・看護師・助産師による健康相談を受けられるとともに、買い物や散歩の途中に立ち寄り、お茶などを飲みながら訪れた人同士が交流できる場所としても利用されている。



まちなか保健室で計測できるもの

- ・血管年齢測定
- ・血圧測定
- ・握力測定
- ・体組成計、体脂肪測定

類似点・参考点

- ステーションには地域の人々が当番制で常駐、土日でも開室。
- 地元の病院・行政職員出身の看護師・保健師が健康づくりの相談員、毎月健康講座を開催。
- 自治会委託による当番制の運営で、自治会の縦のつながりが横のつながりへと深まった。
- まちなか保健室の前での自主的な自治会ラジオ体操が行われるようになり、認知症等で自宅にこもりがちだった人が、地元の人の声掛けで参加するようになった。
- この施設を拠点としたウォーキングマップを見た観光客の立ち寄りも増え、観光振興の一助となっている。

今後の考察

- 目的を明確にした施設の設置で、特定の目的を有した方が立ち寄り、人の流れを創出。
- 自治会の輪番による運営で、自分事として地域が捉えることに発展。同所を中心とした自治会間の交流も増した事例。

出典：真岡市 <https://www.city.moka.lg.jp/index.html>
参考：地域づくり 2016年4月号

4

熊野米を原材料とした缶入り「熊野米パン」製造・販売の6次化 (和歌山県田辺市) 熊野米プロジェクト

「6次産業化」第1次産業と加工・販売業者とのマッチングを促進

概要

- 熊野の地で作った米を見直し、郷土料理を地元の米で作って食べようという米の「地産地消」をするプロジェクト。
- このプロジェクトは平成22年9月30日に国の「農商工連携」事業として認定を受ける。
- 株式会社たがみが、米の新品種「ヒカリ新世紀」を梅調味液で除草し、農薬を減らして栽培した熊野米の付加価値を高めるため、熊野米リソット、缶入り熊野米パン等の加工品開発・販売に取り組む。



類似点・参考点

- 米粉を8割、米甘味料を使用し、3年という長期保存可能な食事用パンの開発を実現。
- 農業従事者の高齢化、農業後継者不足で増加する水田を農地中間管理機構を通じて借り受け、熊野米の栽培拡大も積極的に行う。
- 各種商談会への参加や百貨店の催事、地域イベント等に積極的に出店し熊野米をPRすることで地域振興にも貢献。



今後の考察

- 県外産のブランド米の勢いに押され休耕田も増えている現状の中で、作り手の意識を変え、水田を守り、後継者づくりに力を注いでいる点に注目。
- 「熊野のお米のブランド価値を高めたい」という想いを共有した農家の努力により、熊野の食文化全体のブランド価値を高めるだけでなく、地域を見直し新しい価値を創る事例。

出典: 熊野米プロジェクト <http://kumanomai.com/>
和歌山県6次産業化サポートセンター 和歌山県中小企業団体中央会 平成29年度6次産業化の取組事例集
http://www.chuokai-wakayama.or.jp/6sapo/images/pdf_new/30.3.6/h29nendo_jireishuu2.pdf

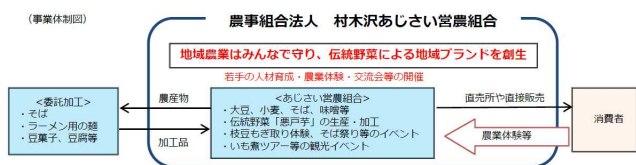
5

地域農業を守る伝統野菜による地域ブランドの創出 (山形県山形市) 農事組合法人村木沢あじさい営農組合

「6次産業化」第1次産業と加工・販売業者とのマッチングを促進

概要

- 地域農業の後継者不足や高齢化により耕作できなくなった農地の受皿組織として、作業受託組織、集落営農組織を経て、平成25年4月に法人組織化した「農事組合法人村木沢あじさい営農組合」が、伝統野菜の「悪戸芋」を活用して冷凍加工品の開発・製造、付加価値を高め、直売所等での販売に取り組む。



類似点・参考点

- 20歳代から30歳代の若い人を雇用し、農業機械の操作等の指導と栽培技術の教育を行うとともに経営継承のため法人運営を担う人材を育成する。
- 組合員に農作業やイベント状況等を使いにして情報共有。
- 組合員と地域住民や一般市民との農業体験、交流会や観光イベント等を開催し、地域農業のPRと活性化に取り組む。

今後の考察

- 農村の抱える問題を地域ぐるみで解決した取組。
- 若手農業従事者の育成に力を入れ、不作地の有効活用も図り、地域の生産性の向上に努めている。
- 地域農業はみんなで守るという意識のもと、伝統野菜による地域ブランドを創生。

出典: 農事組合法人 村木沢あじさい営農組合 <http://murakisawa-ajisai.or.jp/>
農林水産省 6次産業化の取組事例集(平成30年2月) ②農林漁業者団体など複数の農林漁業者による取組 <http://www.maff.go.jp/j/shokusan/renkei/gjika/pdf/jireisyu.html>

6

えごまで地域農業を活性化（富山県富山市） 株式会社 健菜堂（富山市内にある4社が共同設立）

「山のふもと水さらら」IT・SNSを活用した
農産物等の情報発信・販売

概要

- 富山の新たな特産品創出により、地域の活性化を図ることを目的に、平成25年に県内約70社で構成する「えごま6次産業化推進グループ」を設置し、えごま関連商品の研究・開発及びPR・普及活動を行う。



類似点・参考点

- えごま6次産業化推進グループと連携し、えごまの機能性を活用した商品化。
- ミラノ万博等のイベントでPRや学校給食に利用・紹介。
- 富山市環境未来都市プロジェクトの一環として、市等と連携しながら各種PR活動を行う。
- 「富山えごま」SNS（フェイスブック・インスタグラム）開設。
- 富山市地域ブランド認証、ロゴマークの作成。
- 取組の成果
売上高 0円（H25）→1,900万円（H28） 雇用者数 1名（H25）→7名（H28）

今後の考察

- 第2次富山市環境未来都市計画に始まり、6次産業の商品開発からブランド化にいたるまで、産学官連携による大規模な事業。
- 国内PRだけでなく海外への輸出や、SNSを利用するなど現代的な取組を取り入れており、今後の情報発信の在り方の参考事例。

出典：株式会社健菜堂 <https://www.kensaidou.com/>
富山市HP <http://www.city.toyama.toyama.jp/kankyobu/kankyoseisakuka/ondankataisakukikaku/kankyomiraitoshi-egoma.html>
農林水産省 6次産業化の取組事例集（平成30年2月）⑥地域ぐるみの取組 <http://www.maff.go.jp/j/shokusan/renkei/6jika/pdf/jireisyu.html>

7

日本一のゆず村プロジェクト（高知県安芸郡馬路村） 馬路村農業協同組合

「山のふもと水さらら」IT・SNSを活用した
農産物等の情報発信・販売

概要

- 他の市町村とは合併せず単独で生き残る選択をした900人の村が、有機循環農法でゆずづくりに取り組む。
- 村民＝農家が大半を占め、馬路村の農協で働く職員の多くはゆずの農家であり、農協として農家として団結、自分たちで商品開発から製造・販売まで行い「日本一のゆず村」となる。



類似点・参考点

- 四国山脈のふもとに位置し、急峻な山々に囲まれた馬路村は豊富な雨と深山から出する良質な水、村の面積の96%を占める森林の豊かな自然に恵まれている反面、平地が少なく昼夜の寒暖差が激しく農産物の生産には適していない。
- 逆にその気候がゆずにとっては好条件であり、スッキリとした酸味が抜群のゆずを村の特産品として加工販売に至る。
- 物産展での宣伝やテレビCM、アンテナショップの出店、ショッピングサイトを立ち上げるなど全国へPR。
- 村に「ゆずの森」をつくり工場見学誘致や馬路村農協に「おもてなしのコールセンター」を設置し販路を確立。
- 平成29年には、馬路村を含む「ゆずロード」が日本遺産に認定。

今後の考察

- 村の特産品であるゆずの加工品開発に尽力を注ぎ、どうしたら売れるかをあらゆる側面から見直し、改善の取組をしたことが結果に繋がった事例。「馬路＝ゆず」の定着を目指し、サイトも売るために分かりやすい仕様となっている。
- 山村の知名度アップと雇用拡大は村民の知恵と農協・行政との連携があって成し得たことであり、官民連携を軸に生産者同士を繋ぎ、地元特産品の見直しと情報発信力の強化および販路を作ることが必要。

出典：馬路村農業協同組合 <http://www.yuzu.or.jp/>

8

IT・SNSを活用した農産物等の情報発信（島根県邑智郡邑南町） 邑南町観光協会・産直市みずほ企業組合・島根おち農業組合

「山のふもと水さらら」IT・SNSを活用した
農産物等の情報発信・販売

概要

- 邑南町観光協会が地域振興策としてITのメリットを最大化すべく宣伝発信基盤を強化。平成17年に情報サイト&ネットショップ「みずほスタイル」（A級グルメサイトの前身）を立ち上げる。邑南町場A級グルメ立町を目指し、Webサイトのトップページに石見和牛肉、豚肉、醤油、日本酒、スイーツなど同町の特産品を「おとりよせ品」として掲載。
- 「ここにしかないもの」が評価され、今では多くの評価を得て、さまざまなメディアにも取り上げられるようになる。



類似点・参考点

- 島根県邑南町は人口1万人の小さな町であり、少子高齢化が進んでいる。
- 農作物や地域の食文化はこの町の誇りと考え、「生産者が丹精込めてつくったもの」「ここにしかないもの」「ここでしか体験・味わえないもの」をA級グルメとし、「A級グルメのまち」をコンセプトに町おこしを行う。
- 続いて、平成19年に全国公募型の田舎の逸品おとりよせコンテスト「Oh!セレクション」の制度を立ち上げ、平成26年までに5回のセレクションを開催し、全国の田舎の逸品の認定と応援をしている。
- 道の駅「産直市みずほ」には年間20万人もの人が「豊かな食」を求めてやってくるようになった。売上が2,000万円となり、ネットショップ導入前との比較では230%の増加。

今後の考察

- ネットショップとリアル店舗の効果的な融合例。
- 特産品のブランド化の推進のみならず、農家のサポート、生産者や料理人の育成、町への視察受け入れなどの取組を進めており、食文化の発展と継承を目指している。

出典：邑南町 <http://www.ohnan-kanko.com/buy/index.html>
AIKURAセレクト A級グルメ×Shop <http://a-gourmet.jp/index.html>

9

「良質の水」「日光ブランド」のアピール、「食の産業都市」をめざした 食品優良企業の誘致（栃木県日光市）

企業誘致計画の立案

概要

- 良質で豊富な水資源の活用というテーマを絞って誘致を推進、工業と観光の連携で相乗効果を狙った。
- 市長自身が、現地調査の段階から率先して企業へ足を運び、日光市の持つ地域資源やメリットを積極的にアピール。
- 栃木県関係機関との連携した立地時の支援にとどまらず、立地企業が市内に長く定着し、生産活動をより活性化させるために「連絡協議会」や「工業活性化研究会」を定期的に開催し、情報交換や意見交換の結果を施策に反映。
- 誠意とエネルギーを惜しみなく注ぐ日光市の姿勢は、企業との信頼関係を生み、それがまた新たな企業誘致につながるという好循環を醸成し、先に立地した豆腐製造事業者の水使用の実績が、単なる水質データだけでは得られない「日光の水」への安心感を提供し、新たに日光市への立地へとつながった。

類似点・参考点

- 企業誘致活動の原動力となっているのは、トップである市長のリーダーシップ。
- 企業の問題点や課題を直視し、庁内関係各課が一丸となって解決を図るスムーズな対応や、栃木県関係機関とも連携したワンストップサービスを実現。
- 組織体制についても、日光市では平成19年度に、従来の観光部門と共同となっていた商工業の振興部門を「商工課」として独立させ、企業立地推進体制の強化を図っている。中でも最前線の担当者人事はほぼ固定されているため、日光市の「企業誘致の顔」となり、企業との信頼関係も深い。



今後の考察

- 地域資源に着目し、観光と産業活性化を上手く相乗させた成功事例。
- トップの積極的な活動だけでなく、関係機関の連携体制がワンストップサービスを実現し、企業の問題や課題をスピーディーに解決している。
- また、環境にも配慮した燃料転換も実施するなど、産業と自然の共生を目指している点も参考にすべきところ。



出典：「企業立地に頑張る市町村事例集」平成20年3月 経済産業省 地域経済産業グループ編 <http://www.city.hashimoto.lg.jp/business/kigyoricchishien/1360297779281.html>
「地方都市における企業誘致戦略に関する調査研究」平成24年3月 山形県新庄市 財団法人地方自治研究機構 http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/004/pdf/h23_h23_11.pdf

地の利を生かした着実な企業誘致活動とトップセールスで 「瑞浪クリエイション・パーク」早期完売 (岐阜県瑞浪市)

企業誘致計画の立案

概要

- 新技術・新製品の開発、新分野への進出を図る中小ベンチャー企業を支援するための市内初の産業団地「瑞浪クリエイション・パーク」の事業化を実現。
- 進出企業は、制御機器製造業、食品加工からフィルム製造、医薬品製造等と多岐にわたり、当初の整備目的である当地での新事業開拓に見合った状況を作り上げた。

類似点・参考点

- 市長が中心となり、地域振興整備公団（現・独立行政法人中小企業基盤整備機構）や岐阜県へ積極的に働きかけ、用地買収等は市で担当、広大地の分筆、地元調整、不在地主や相続未登記物件調査、各筆測量等、多岐にわたる作業も市の地籍調査事業と合わせて処理することで、効率的かつスピーディに課題をクリアしていった。
- 分譲可能な単価設定に持っていくために、道路・雨水幹線・上下水道・公園等の団地内のインフラも市の公共事業で集中的に実施しコスト低減に努め、進出企業の要望に沿える価格を設定。
- 一方で、閉鎖型になりがちな場内道路を市街地と周辺を結ぶ通過道路として整備するなど、市民の利用にも配慮。
- 市長の「雇用の場の創出」「産業構造の複合化」「産業振興は福祉の糧」などの言葉が誘致アナウンス効果をもたらし、産業団地の分譲開始の頃には周辺から「明るい話題の瑞浪市」といわれるようになり、やがて「元気な中部」という背景も相まって、当団地の存在についても周知されるようになった。
- オーソドックスなセールスであったが、着実な企業訪問を繰り返し、東海環状をはじめとする整備された道路網や豊田市とも隣接する当地の立地面の優位性、また住環境も恵まれているという点をPRするという「地の利を生かした着実な活動」を重ねていった。
- 立地企業に対して、①事業所等設置奨励金 ②事業所等賃借設置奨励金 ③雇用促進奨励金 の3つの優遇措置を行った。

今後の考察

- 市長の熱心な視察招致やアプローチが、企業の検討のきっかけとなった事例。
- 中央高速道へのアクセス面や公共下水整備など、様々な立地条件を整えたことも多くの企業誘致の決め手になったと考えられる。

出典:「企業立地に頑張る市町村事例集」平成20年3月 経済産業省 地域経済産業グループ編
<http://www.city.hashimoto.lg.jp/business/kigyoricchishien/1360297779281.html> (和歌山県橋本市HPより)

11

ひとの生活によりそう食器づくり (長崎県諫早市) 株式会社シーズ

「BABAラボ 岐阜池田」
100歳まで働ける場の創出

概要

- 器の企画販売を手がける長崎県波佐見町の商社「aiyu」・プロダクトデザイナー・障がい者の生活をサポートする椅子や車椅子の制作を手掛ける「株式会社SEEDS」の三者による食器製造の取組。
- 手が小さい子どもたちや握力が弱くなってきた高齢者、障がいを持つ人が食事をおいしく楽しめることを目指し、とことん持ちやすく、使いやすく、食べやすくあることめざした「motteシリーズ」を開発。



熱さを感じにくいハンドル形状
スープマグとマグカップのハンドルは、大きめで持ちやすいリング形状。内側には丸みを持たせソフトな握り心地で、ハンドルに通した指がカップに触れた時にもなるべく熱くないように、ハンドルとカップの接合部分を二重にし、厚みを持たせている。



最後のひとくちまで楽に抱える形状
カレーやグラタンなどの人気メニューに使いやすいオーバルボウルも、食卓で一番出番が多いプレートも、スプーンを添わせることで楽に抱って食べることができる壁になっている。また、磁器特有のその重さから、片手で食べても食器が動きにくく食事を最後まで楽しむことができる。



類似点・参考点

- どのアイテムもなるべく重心は低く、口径は広くなるよう設計されている。
- 使いやすい上に安定感のあるデザイン。
- ボウルやプレートだけでなくスープマグとマグカップも重ねて収納することができ、広い口径は洗いやすく、清潔に保つことができる。

今後の考察

- 使う人と同じ目線で、人々の生活の経験を感性で理解し、暮らしやすさを追求する。
- 快適と安全をめざしてもものづくりに取り組んでいくことが重要。

出典:株式会社シーズ <http://www.seeds-seating.com/>

12

ひとりひとりの悩みを解消する靴開発 （香川県さぬき市） 徳武産業株式会社

「BABAラボ 岐阜池田」
100歳まで働ける場の創出

概要

- 香川県の綿手袋縫製工場がスリッパ等の縫製を経て、介護施設で生活する高齢の方に向けたケアシューズを開発。
- OEMメーカーとして大手通販の旅行用スリッパ等の企画・製造をしていたが、高齢者施設からの「高齢者が転ばない靴を作って欲しい」という依頼をきっかけに靴製造に取り組む。
- 持っていた靴づくりのノウハウと約500人のモニター協力を得て、開発期間2年をかけて完成。
- 転倒しにくいだけでなく、履きやすさ、そして身体だけでなく心まで元気になるよう、一足一足こだわりと自信を持って製作している。



類似点・参考点

- はれ、浮腫、足指の変形など、個々の悩みに寄り添い、「パーツオーダーサービス」を開始。あらゆるオーダーに対応し、一つ一つ丁寧に手作業での受注生産。
- 「片方のみの販売」や、「左右サイズ違いでの販売」も実施。
- 機能だけでなく、見た目にも心配りを感じられる靴を提供。
- 技術力だけでなく、安定品質・短納期を目指し、徹底した資材管理をしている。

今後の考察

- 足や歩行に悩みがある方一人ひとりの声に耳を傾け、常に改良に取り組む姿勢は、ものづくりとして見習うべきところ。
- 人々の生活を快適なものにするために、常に現場に足を運び、現場の声に耳を澄ませ、隠れているニーズを深掘りしていくことが欠かせない。

出典：徳武産業株式会社 <https://www.tokutake.co.jp/>

13

豊かな地域資源を活用した体験型観光事業 （三重県大紀町） 大紀町商工会

池田山を活用した体験交流ツアーの実施

概要

- 平成25年7月大紀町商工会が主体となり大紀町・商工会員・松阪商工会広域連合などで大紀町地域活性化協議会が発足。
- 大紀町の豊かな地域資源を活用した体験型観光事業の企画開発と、特産品の宣伝・PR、販路拡大、新商品開発事業などに取り組む。
- 農林漁業体験民宿を中心とした訪日外国人団や国内教育・団体旅行等の受け入れも実施。
- 大紀町内のツアーコーディネート窓口を担う。



類似点・参考点

- 女性に人気がある「山ヨガ」「海ヨガ」「タラソセラピー」などを取り入れ、美容ツーリズムとしての発信力を高める。
- 農業・漁業から暮らし・文化に至るまで、様々な自然体験を企画。子供から大人まで楽しむことができる。
- 少人数でも気軽に参加できる個人向け、修学旅行や校外学習、体験学習、林間・臨海学校などの教育旅行や、企業などの社員研修等に活用できる体験プログラムまで幅広く企画。
- 教育旅行や社員旅行においては、入村式・離村式があり、大紀町の人々との交流の場となっている。

今後の考察

- 地元の豊かな地域資源を活かして人々の交流を活性化。それを地域の関係団体だけにとどまらず、商工会広域連合まで広げて協力体制を構築している。

出典：大紀町地域活性化協議会 <http://taiki-okuse.jp/>

14

クアオルト事業を導入した地域活性プロジェクト（山形県上山市） 上山市クアオルト協議会

池田山を活用した体験交流ツアーの実施

概要

- 県内で医療費にかかる割合が高い上山市が、平成20年度から自然環境や温泉、食などの恵まれた地域資源を活かして市民の健康促進や交流人口の拡大による地域活性化を目指した取組。
- 全国に先駆けて官民一体となった取組であり、“心と体がうるおう”まちづくりを目指している。
- 「上山型温泉クアオルト構想」を実現させるため、毎年度フォローアップを行いながら具体的取組を実施。



類似点・参考点

- 市内には日本唯一となるドイツ・ミュンヘン大学より鑑定を受けた認定8コースを含む約20コースを整備。
- ドイツで心臓のリハビリや高血圧の治療として実施される運動療法「気候性地形療法」を取り入れる。
- 医科学的根拠に基づく「クアオルト健康ウォーキング」を専任ガイドの案内で年間360日開催。参加実績は平成21年371人（ウォーキング導入年）→平成26年10,073人（4月～12月）、導入から5年で約27倍の人数に増加。「クアオルトウォーキング3万人プロジェクト」は現在も継続中。
- 近年は、特定保健指導対象者や糖尿病予備群を対象にした、宿泊型新保健指導（スマート・ライフ・ステイ）ツアーや福利厚生ツアーなど、県内外企業・事業所の健康経営を地域を挙げて支援。
- 地元食材を活かした「クアオルト」弁当を民間企業と連携して開発。

今後の考察

- 池田温泉・池田山を活用した新たな誘客スタイルとして参考となる事例。

出典：上山市温泉クアオルト協議会（上山市クアオルト推進室内） <https://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/site/kurort/>

15

山を活かした地域振興「山ガール・サミット」（熊本県上天草市） 山の旅企画室

池田山を活用した体験交流ツアーの実施

概要

- 熊本県上天草市で発足した山ガールのためのアウトドアイベント「山ガール・サミット」。
- イベントを通じて、それぞれの豊かな自然、風土、食を紹介する企画。トレッキングやハイキング、遊歩道の散策で味わえる『キレイなところ』を感じてもらい、自然から受ける恩恵を感謝し、山（公園）などの清掃活動をする。山ガールに集まってもらい街に活気をあたえ、地産地消で街もさらに元気にする取組。
- 始まりは、平成22年10月 熊本県上天草市長発案により、山ガールを呼ぶことを目的とした「山ガール・ファッションショー」を熊本県上天草市、白嶽界隈で開催。単なるファッションショーで終わらせず登山のイメージを定着させるため、平成24年11月「山ガール・サミット」と名称変更してイベントを続ける。
- 翌年に女性向けアウトドア全国紙『ランドネ』でも紹介。全国から、180名の参加となる。
- 「ガール」とうたっているが、男性でも女性と一緒にであれば参加可能。

類似点・参考点

- トレッキング、もしくはウォーキングでその地域の自然を紹介しながら自然保護のための清掃活動を行う。
- さまざまなイベントも企画、平成30年は「大山開山1300年」、第3回「山の日」記念全国大会in鳥取と兼ね合い、鳥取県が主催として開催。
- 「1県1会場」（上天草市除く）、「便利な宿泊施設・ホテルを使わず旅館やロッジ・キャンプ場など共同生活できる場を利用すること」といったルールを制定する。
- イベントは、1泊2日宿泊コース・トレッキングのみ日帰りコースに設定。
- SNS利用率と口コミで「山ガール・サミット」の魅力発信を促している。



今後の考察

- 登山ブームに乗った観光誘客に成功した事例。
- 単なるイベントに終わることのないよう規定を制定したり、様々な取組をして本来の目標を維持している。

出典：山ガールサミット（有限会社 山の旅企画室） <http://www.yamagirlsummit.net/index.html>
参考：地域づくり2015年8月号

16

民間企業のアウトドア観光を取り入れた地域活性化（北海道帯広市） DMO「デスティネーション十勝」

池田山を活用した体験交流ツアーの実施

概要

- アウトドアを軸に民間企業「株式会社スノーピーク」（アウトドア用品メーカー）が十勝の19市町村と共同で試みる観光戦略。
- DMO「デスティネーション十勝」を設立。
（出資：スノーピーク49.2%、帯広市、北海道銀行、北洋銀行、帯広信用金庫、JTB北海道、電通）
- グランピングの仕組みを使い、様々なアクティビティを組み合わせ、フレンチなども提供できるアウトドアツアーパッケージを提供。
- 地域資源を十分に活用し十勝の価値を創造・発信していくことで十勝地域のブランド化を実現。



類似点・参考点

- スノーピークは、DMOではキャンプ場の指定管理者となっているが、大阪府箕面市や大分県日田市のキャンプ場でも運営の実績あり。
- 同社の持つブランドの顧客資産とネームバリューが人を惹きつける大きな要因であり、キャンプ場の管理だけでなくキャンプ用品の販売、小売りも一緒にできる利便性が特長。

今後の考察

- 民間企業との共同による地方活性化の取組。広大な地域資源を活用し、行政だけでなく金融機関などの共同出資により資金の問題もクリアできている。
- 企業のブランド力を最大限に利用し、企画規模の拡大や知名度アップにつなげることができた事例。

出典：株式会社デスティネーション十勝 <https://destination-tokachi.jp/index.php>

17

市町村の枠を超えた広域による移住の推進（長野県諏訪郡原村） 原村、諏訪圏移住交流推進事業連絡会、ハケ岳定住自立圏、 原村田舎暮らし案内人

どうせ住むなら池田町」移住者向けの
情報発信や移住コンシェルジュの募集

概要

- 村単独の移住推進に加え、広域連携での移住推進に取り組む。
- 原村移住体験住宅の設立や若者定住促進新築住宅補助金などの施策も打ち出している。
（関係団体：原村、諏訪圏移住交流推進事業連絡会、ハケ岳定住自立圏、原村田舎暮らし案内人）



類似点・参考点

- 平成30年9月より、田舎暮らし体験ができる体験住宅ラズベリーハウス（東棟）・ブルーベリーハウス（西棟）2棟の利用を開始。
- 40歳未満の村民がリビングゾーンまたはテクノパークゾーンに住宅を新築した場合、50万円を補助する「若者定住促進新築住宅補助金」（平成33年3月までの予定）や、通学の距離が小学校では片道4km以上、中学校では片道5km以上の場合、定期代の全額やガソリン代の半額を補助する「通学費補助事業」などを制定。
- 原村の移住住民で構成するボランティアグループ「原村田舎暮らし案内人」を育成し、移住希望者に原村暮らしの魅力の発信、個別の相談対応の移住希望者のサポートを行う。
- 会員証を提示で様々な特典を受けられる、年会費無料の「原村ファンクラブ」を発足。

今後の考察

- 周辺市町村と連携した移住施策を推進するとともに、原村田舎暮らし案内人を組織し、先輩移住者の視点で移住希望者をサポートする体制を先進的に構築している。
- 用途にあわせて3つのゾーンに区画し、開発制限を設けて自然保護に努めるなど、ゾーンごとの特性に応じたまちづくりを進めている。

出典：美しい原村の暮らし 信州・原村 移住・定住応援サイト <https://www.hara-life.jp/>
平成29年12月内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 移住・定住施策の好事例集（第1弾） <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/pdf/ijyu-jirei-1.pdf>

18

福岡に移住したい！ITクリエイターのための移住・
転職応援プロジェクト（福岡県福岡市）
福岡クリエイティブキャンプ（FCC）

どうせ住むなら池田町」移住者向けの
情報発信や移住コンシェルジュの募集

概要

- 平成26年に福岡市が、主に首都圏で活躍しているIT・デジタルコンテンツ等の開発経験者（クリエイティブ人材）の福岡市内企業へのU/Iターン転職を応援するためにプロジェクトをスタート。



類似点・参考点

- 3週間のリモートワークのお試しプログラムを実施。6人で共同生活する住居（シェアハウス）・仕事場（オフィス）を福岡市内にそれぞれ用意、交通費・食費などは自身で負担。観光ではなく「住む街」としての福岡を堪能してもらうことが目的で、移住・リモートワークに興味がある方を必須条件として募集。
- 毎月2組限定の完全予約で「福岡移住計画」東京スタッフと福岡の仕事や暮らし、環境のことなど個別に相談できる「移住コンシェルジュ@東京」を開催。
- 求人検索エンジン「スタンバイ」（運営：株式会社ビズリーチ）を活用し、スマートフォンで簡単に就職活動ができる取組も始めている。

今後の考察

- 福岡市が、「若いクリエイターが自由に活躍できるまちづくりを推進する」という目的を明確化した事業。
- ITクリエイターに特化した移住促進により、産業の発展と人口の増加を掲げ、都市活性化を目指している事例。

出典：福岡クリエイティブキャンプ（FCC）HP <http://fcc.city.fukuoka.lg.jp/>

19

古民家リフォーム塾（岐阜県恵那市）
特定非営利活動法人奥矢作森林塾

どうせ住むなら池田町」移住者向けの
情報発信や移住コンシェルジュの募集

概要

- 過疎・高齢化が進む地域に人を取り戻すため、空き家を地域の資源としてとらえ、地域外からの人材を移住につなげようと、都市と農村の交流事業を開始。
- 市と地域が協力、計画・設計・申請・登記まで奥矢作森林塾がバックアップしている。



類似点・参考点

- 地域の空き家を資源として、地元の大工と一緒に家の改修を行い、家の再生・活用を通して移住定住へとつなげる活動を実施。
 - ・リフォーム塾を全10回、1講座2日で企画、宿泊or日帰りもOK
 - ・田舎体験と人との交流も楽しめる実践塾体験イベントやその他の交流事業も実施
- リフォーム塾の参加者は11年で2,000人を越え、塾生の中から25世帯66人が移住し、人口減少が緩やかになった。
- 地域住民との交流によって新しい風が吹き込み、地域住民主体の地域活性化が大きく進んだ。

今後の考察

- 移住者にとって、地域住民との交流をどう進めるのかが常に大きな課題。
- 移住者が自治会長など地域活動の新たな担い手となって、地域住民との協働により「空き家ゼロ」を実現するために準備体制を整えている事例。

出典：NPO法人 奥矢作森林塾 <http://www.shinrinj.enat.jp/riform/index.html>
総務省 平成29年度ふるさとづくり大賞受賞者の概要 http://www.soumu.go.jp/main_content/000527874.pdf

20

概要

- 「自分たちのまちのことをもっと知ることで、一人ひとりが、このまちが好き、と思う気持ちを抱き、その気持ちを持った同志がつながることで、共にまちをよくするための活動がひろがれば、まちはもっと元気になる」きっかけづくりを目指して平成30年1月より小冊子発行とWebでの活動を開始。
- 毎回、まちのヒトやまちカドの、まだまだ気がつかない魅力に真面目に向き合いながら、ちょっと違った視点で、そしてカジュアルに伝えている。



類似点・参考点

- 季刊発行 年4回発行予定
- 配付場所 三島エリアを中心にショップやレストランや共施設に設置
- 発行人 河田亮一（加和太建設株式会社）
- 三島のまちの活性化を願い、活動する発行人の考えに共感したメンバーが集結し、「三島のまちの魅力を多くの人に伝えたい」「このまちを誇りに思うきっかけになってほしい」という想いで活動している。
- 読者から「ハレノヒ写真」を募集し、掲載された人にはオリジナルTシャツと缶バッジをプレゼント。

今後の考察

- 発行して日が浅いが、見慣れたまち、当たり前前の場所を違う角度からとらえ、まちの魅力を十分に引き出した作り方、単なる観光マップではなくまちの歴史と自然を伝える内容になっている。

出典：ハレノヒ <https://www.mishima-harenohi.jp/index.html>

21

概要

- 街なかで継続的に活動する面白い人々や団体・お店にスポットを当てながら、“街なかの日常”の魅力を発掘・発信している。
- 「人」と「街なか」をつなぐきっかけ作りを目指し、記事は毎号変わる特集をベースに、佐賀市の街なかに関心をもつ市民ライター達が、自分自身の目線で「いいな！」と思える情報を独自の切り口で編集、紹介。



紙メディアだけでなく
Web版も配信

類似点・参考点

- 発行月 奇数月15日発行（年6回）
- 発行部数 10,000部
- サイズ・カラー B3・1 C
- 配布場所 佐賀市内の多くの店舗・公共施設など、約170箇所設置
- 発行 街なかかわらばん編集室（特定非営利活動法人まちづくり機構ユマニテさが内）
- かわらばんは、佐賀大の学生がまちづくり活動の一環で製作していたものを同法人が引き継いだ。
- 紙メディアだけでなく、Web版の配信では街の空き物件情報や紙面で掲載した情報、そして掲載できなかった情報やイベント情報などを定期的に発信している。
- 毎号ことポイントを絞り、独自の切り口で街の魅力を引き出している。

今後の考察

- 町民参加型になっており、それぞれの目線で情報紹介をしているところに面白味がある。
- 決まりごともなく書き手が伝えたい記事を、発行者が特集を組みながら上手く情報発信しているところが、14年間も発行を続けることができた所以であると思われる。

出典：特定非営利活動法人まちづくり機構ユマニテさが <http://kawaraban-web.com/>

22

おんせん県おおいたPR動画「プレミアムフロイデー」 (大分県)

ショートフィルム・YouTubeなどで
池田町をアピールしよう

概要

- 自治体動画のパイオニアと言われるのが、温泉で有名な大分県。
- 平成23年の「おんせん県」シリーズに始まり、平成27年には温泉での奇抜な演出の「シンフロ」シリーズを制作、元日本代表選手が率いるプロのシンクロチームが、大分県の温泉でシンクロにチャレンジし話題となる。



類似点・参考点

- 動画の再生回数はおよそ210万回。
- 今回の制作費はおよそ1000万円、その効果は広告に換算すると35億5000万円にのぼる。
- 平成29年には、休日温泉で過ごそうと呼びかける「プレミアムフロイデー」を発表した。

今後の考察

- 温泉とシンクロという異色の組み合わせを見事にコラボさせた動画が斬新であり、全国の自治体動画のきっかけ作りになったともいえる作品。
- 奇抜な発想も面白いが、親しみを感じる「おんせん県」というネーミングを定着させることに成功した事例。

出典：大分県 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/10400/purefuro.html>
NHK政治マガジン「思わず二度見 自治体PR動画の世界」 <https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/5419.html>
大分県プロモーション動画 <http://onsenkenoita.com/>

23

さりげない仕掛けが経済効果を生んだ動画「ンダモシタン小林」 (宮崎県小林市)

ショートフィルム・YouTubeなどで
池田町をアピールしよう

概要

- 上質なシネマ風の映像美の中で、市内を巡りながら豊かな自然、水、星、食や人の温かさなどを紹介。外国人ならではの独自の切り口で、ちょっぴり不思議に見えてくる小林市の「あるある」をユニークに語っていく。
- この動画にはちょっとした遊び心があり、小林市ならではのギミックで、見ている人みんなが「そうきたか！」と膝を打つ、まさかのラスト。見終わった後に、もう一度見たくなる仕掛けが隠されている。



類似点・参考点

- 制作費は1本200万円で、再生回数はおよそ240万回。
- SNSを中心に人気に火が付き全国ネットのテレビでも紹介されるなど、その広告効果は10億円以上とも言われている。
- ふるさと納税の寄付額は、平成26年度に1億3,000万円だったが、平成27年に動画を公開後、平成29年度には8億4,000万円に跳ね上がった。
- 移住に関する相談件数は、動画の公開後には公開前の約4.5倍に。さらに、同市の公式Webサイトの閲覧数は8倍、市内の空き家などの住宅情報を提供する「空家バンク」のページへのアクセス数は10倍という効果をもたらした。

今後の考察

- あたり前の風景と方言、視点を変えた伝え方で人々の興味をひいた面白い動画。
- 動画の役割を小林市の認知に割り切ったこと、二度見したくなる仕組みを作りあげたことが成功の秘訣。

出典：小林市 てなんど小林プロジェクト <http://www.tenandokobayashi.com/movie1>
NHK政治マガジン「思わず二度見 自治体PR動画の世界」 <https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/5419.html>
Ad Arch株式会社「参考にしたい！結果を残した地方自治体の動画PR」 https://www.adarch.co.jp/2016/09/16/chihousousei_movie

24

歴史ある地域特産品をPR「もしも刃物がなかったら・・・」 (岐阜県関市)

ショートフィルム・YouTubeなどで
池田町をアピールしよう

概要

- 「世界でも有数の刃物の産地」として知られ、鎌倉時代からの刀鍛冶の歴史のある関市が作成した動画。
- 髪をふりみだして野菜を手刀で切ろうとする目が血走った主婦から始まり、結婚式でウェディングケーキに拳を叩きつける新郎新婦などハチャメチャな映像が続くと思っで見続けていると、全て刃物につながるオチになっている。



類似点・参考点

- 「もしも刃物がなかったら・・・」というアンチテーゼを表現した面白い動画と話題になった。
- 平成27年に公開されて既に34万回以上再生されている話題の地方創生PR動画。
- 刃物のまちのPR動画なのに刃物が最後まで出てこない。逆の発想で見る者が納得する作り方となっている。

今後の考察

- 単なるおもしろ動画の域を超え、ものづくりと生活が密着していることの重要性を、あらためて認識させる見事な作り方。

出典: Motionmapping クオリティ高すぎて面白すぎる地方創生PR動画を厳選! おすすめ18選 <https://motionmapping.com/region-pr-movie/>
Webマガジン「ロコカル」 <https://colocal.jp/news/54538.html>

25

コスパ重視動画 (長野県小諸市)

ショートフィルム・YouTubeなどで
池田町をアピールしよう

概要

- 動画の制作費は9,500円。職員が撮影、編集を手がけた。
- 洗練されているとは言い難いが、暖かみのあるほのぼのとした作品であり、小諸城址やりんごなど観光名所や特産品のPRもできており、キャストは市長や職員。
- 再生回数は「成功ライン」といわれる1万回を突破。



類似点・参考点

- 小諸市は第2、第3弾も制作。第3弾では市内の学校給食を取り上げ、地元食材の使用・食べ残しが少ないなど、おいしさをPR。
- 動画を見た台湾の教育関係者が平成30年7月視察に訪れるなど、海外からも反響を呼んでいる。

今後の考察

- 町長をはじめとした行政が、自分たちのできるところからという発想で生まれた動画。
- お金をかけなくても地方の持ち味を生かし、誰にでもわかりやすい内容は、年代問わず受け入れられやすいPRとなっている。

出典: 小諸市 <http://www.city.komoro.lg.jp/news/2017021700053/>
NHK政治マガジン「思わず二度見 自治体PR動画の世界」 <https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/5419.html>

26

波佐見町は永遠の輝き (長崎県波佐見町)

ショートフィルム・YouTubeなどで
池田町をアピールしよう

概要

- 移住・定住施策の一環として、波佐見町の魅力を発信するために作られたPVのようなPRムービー。
- 監督から主演、出演者や主題歌に至るまで全て波佐見町ゆかりの人や実際に住んでいる人で作られた動画で、歌も映像も美しく、それでいてコミカルなストーリー展開を楽しみながら様々な波佐見町の観光スポットを見ることができる仕上がりとなっている。



類似点・参考点

- リズム良い音楽で、波佐見町の魅力ある風景を余すところなく取り上げ、どんな町なのかわかりやすく作られており、見ていて心地よい仕上がりになっている。
- 方言交じりの主題歌「Alright HASAMI」も作詞・歌ともに波佐見町出身者で、郷土愛が溢れる動画。

今後の考察

- 覚えやすいメロディーに乗ったストーリー性のある動画は、視聴者に次はどうなっていくのだろうと興味をそそる。
- 決して「いまだき」と思えるような作品ではないが、見慣れた町を余すところなく親しみを持って伝えているところにこの動画の魅力があるのではないと思われる。

出典: 波佐見町 <https://www.town.hasami.lg.jp/kankou/douga/1301.html>

27

荒尾・玉名結婚サポートセンターKOIBANA (熊本県玉名市) 有明広域行政事務組合荒尾玉名地域結婚サポートセンター

「Oとプロジェクト」若者コミュニティの
活性化により結婚へつなぐ

概要

- 有明広域行政事務組合を構成する「荒尾市」「玉名市」「玉東町」「南関町」「長洲町」「和水町」2市4町が抱える最重要課題『人口減少』を食い止めていくために、定住化・少子高齢化や未婚化・晩婚化を解消し、市町村の枠を超え独身の男女の出逢いの場を創出して、交際から成婚へのお手伝いをしようと平成22年6月に熊本県玉名郡長洲町にある有明フェリーターミナル3階に、荒尾・玉名地域結婚サポートセンターを開設。(現在は玉名市役所岱明支所3階に移転)



類似点・参考点

- 平成27年4月1日より荒尾・玉名地域の2市4町全ての市役所・町役場・支所等での入会申込みが可能となる。
- 個別相談・お見合いのセッティング・各種イベント・専門家によるアドバイス・情報を無料で提供。
- あらたま地域外へサポートセンターが出張するサービス「出張KOIBANA」でお見合いのセッティングも行う。
- KOIBANA企業サポーターの募集。

今後の考察

- 少子高齢化の緩和・解消を目的とした行政主体の6つの広域にわたる珍しい取組。
- イベント参加形式と1対1のお見合い形式があり、自分に合った婚活を選ぶことができるだけでなく、サポートセンターのスタッフはイベント開催だけに終わらず、会員のアフターフォローにも努めている。

出典: 有明広域行政事務組合荒尾玉名地域結婚サポートセンター <https://www.ariake-kouiki.or.jp/konkatsu/>

28

概要

- 奈良県が結婚を応援する企業や店舗、NPO等（結婚応援団員）と協働し、結婚を希望する独身男女を応援する事業。
- 結婚応援団員として登録した県内の企業や店舗・NPOが、独身男女のための出会いイベントを主催し、県はイベントの情報発信を行う役割を担う。
- 企業・店舗などの応援団員による独身男女の「出会いの場」を提供。（現在は38団体が団員として登録）



類似点・参考点

- 奈良県：応援団員の登録、イベント等の情報提供、応援団員：イベント等の企画・実施、参加者の募集・決定・通知と役割が明確化。
- イベントの企画内容は、応援団の趣旨に反しない限り自由に設定でき、自分の店舗を利用することもできる。
- 奈良県内に事務所又は事業所がある企業・店舗・団体等であれば誰でも応援団に登録できるが、登録期間は登録日から登録日の属する年度の翌年度末までの期間であり、継続する場合は新たな登録申請を行う必要がある。

今後の考察

- 応援団員が主導となり、様々なイベントを開催しているので、傾向がマンネリにならないところが良い点。
- 会員の情報は県が管理するため、安心して参加をすることができる。
- 応援団が店舗を利用したイベントを開催することもある、地域活性化にもつながる事例。

出典：奈良県 <http://www.naradeai.pref.nara.jp/>

29

概要

- 長浜市に住むママ2人が、「もっと子育てがしやすい環境」「より活気ある街を作りたい」という思いから、「ママが求める空間を作る」という活動を開始。
- ママ目線のカフェを設営、ママたちが情報交換できる新しい出会いの場や、学びの場として再就職支援セミナーを開催するなど自己啓発の支援も行っている。



類似点・参考点

- 自分たちの子育ての経験から、同じ悩みを持つママたちを応援し、より良いまちづくりにつなげていこうとする取組。
- 子連れでも気軽に立ち寄れるような環境を整えたカフェを月曜日から金曜日と平日の祝祭日に営業。
- 再就職のためのセミナーや起業支援を考えているママ向けに、活動拠点を提供・スタートアップセミナーを開催。
- キャリアカウンセラーによる個別お仕事相談を開催。
- 滋賀マザーズジョブステーションによる無料出張相談を、毎週月曜・10時～15時に開設。（1時間程度）
- 未就学児向けには、同月年齢でのふれあいができる「ろこぐみ」で、保育園のような体験ができる。
※初回登録料1,000円が必要、半年間で全7回の開催。

今後の考察

- ママカフェの意義は、憩いの時間や情報交換の場にとどまらず、子育てママの働く場の創出を促す重要な役割を果たしている。
- 実際に子育てを経験した人だからこそママの気持ち・子供の気持ち、社会復帰した際の不便さを理解することができる。再就職までを視野に入れた活動内容はニーズの高まりが予想される。

出典：子育て応援カフェLOCO <http://locoenjoythemommylife.com/>

30

概要

- NPO法人Mama's Caféが、子育て中の母親を中心に“子どもを親類や施設に預けて働くのではなく子供と一緒に働ける職場”として「Mama's Cafe」「Mama's+Plus」というカフェをはじめ「子育て」を中核にした様々な事業を展開。
- 平成21年4月、多治見市からファミリー・サポート・センターを受託運営。

【ファミリー・サポート・センターの仕組み】



▲絵本に登場する美味しい料理を絵本とともに

類似点・参考点

- カフェ事業、物販事業、絵本託児事業（集団託児/有料）を展開。
- ファミリー・サポート・センターとして子育て支援だけでなく、援助会員のスキルアップ講習や病児サポート援助会員の講習会なども行う。
- Mama's（ママズ）基金を設立し、子育て困窮家庭を支援。
- Mama's通信でカフェやファミリー・サポート・センターの情報を発信。

今後の考察

- 子どもと一緒に出勤し、誇りをもって働く姿を見せる新しい形の就労支援の取組。

出典：NPO法人Mama's Café <http://mamascafe-plus.com/>

31

概要

- 一般社団法人Stand for mothersが「豊かで充実した暮らしをつくり、楽しむ」をコンセプトにカフェやマーケット、民間型ハローワーク、学校、イベントフロアの一体型空間を造り上げる。
- フロアには「暮らしづくりカフェ」「おしごと百貨店」「共有スペース（暮らしづくり公園）」の3つのエリアを整備。
- 自立支援と、自助共助のきっかけづくりとして「暮らしづくり学校」「暮らしづくりfes」「暮らしづくり会議」「しごとづくり会議」の4つのコンテンツを提供。



類似点・参考点

- 施設を利用するには「メンバー登録」、施設を使って施設利用者へコンテンツを提供したい場合は「スペースオーナー登録」をする。
- 「おしごと百貨店」では、専門スタッフによるおしごと相談（無料託児サポート1時間つき）や、履歴書作成・復職・就労後のアフターフォローといったサポートもしている。
- ホームページで毎日200件以上の仕事情報を更新、求人情報の問合せフォームからエントリーできる。
- 平成30年5月「ママたちが活躍するまち・家族が暮らしやすいまち ふくしま」プロジェクト「Link-Ring Koriyama」をスタートさせ、ママたちの活躍を情報発信し、まちづくりの活性化に取り組み始めている。

今後の考察

- 復職を視野に入れたサポートを提供。

出典：暮らしづくりビレッジ（宮城県郡山市） <http://kurashivillage.jp/>

32

概要

- ひがしね子育て支援として「子育て支援センター、ファミリー・サポート・センター」を開設。同施設には、子育て健康課、ひがしね保育所が併設されており、育児相談からファミリーサポートの受付、育児講座の開催などの情報提供を行う。
- 「出生届以外のすべての手続きや相談をワンストップで行える施設」として、妊婦から出産後の子育てまで利用できる施設等を事前に知ることができ、安心して子どもを産み育てる環境を創出。
- 運営は東根市がNPO法人クリエイティブひがしねに委託。



類似点・参考点

- 「けやきホール」は利用に年齢制限がなく、ハイハイの赤ちゃんから小学生や大学生等幅広い年代の遊び場として利用。
- 「子育て支援センター」は、月齢に合わせて4つのサロンを開設。育児講座の開催や公民館へ出向く移動サロンも実施。
- 「ファミリー・サポート・センター」は会員登録することで相互援助ができる。
- 公立「ひがしね保育所」も設置。
- 東根市子育て健康課では検診から保育施設入所までの手続きが可能。
- 東根市子育てSUNセンター情報誌「みんなでぎゅっ！」（3施設合同誌）および子育てイベント情報誌「ぎゅっと」を発信。

今後の考察

- 妊娠したらまずはここに相談という、子育てに関する総合窓口としての機能を有する。
- 子育てを支援するまちとしてのPR効果は高い。

出典：総合保健福祉施設「さくらんぼタントクルセンター」 <http://www.tantokuru.jp/>

33

概要

- 休業したガソリンスタンドを改装し、事業所からの相談や、働く人の相談・研修の場、ワーキングスペースを利用した仕事場を設立。
- 希望の就労形態に合わせてサポートする「まちの人事部」を設立・運営する。



類似点・参考点

- ワーキングスペースの隣には子どもの遊びスペースが設置され、その間の仕切りの壁を低くすることで子ども連れの母親でも安心して仕事ができるように設計されている。
- “雇用関係”ではなく“登録制”を取り入れた短時間労働「おしごとコンビニ」を実施。受託登録メンバーと実際に仕事をした報酬を分配するという仕組みを構築。（案件例）袋詰め・シール貼り・発送・選別・裁縫・パソコン入力・清掃・アンケート調査・レジ・草刈り・草取りなど
- 就職・起業希望者向けには職安の求人情報公開、キャリア相談、履歴書の書き方や面接対策相談を実施。（職安との連携：月1～2回、職安の職員による就職相談や就職先の紹介）
- キャリアアップしたい人にはキャリア相談や勉強会の開催、また町民が持っている知識や技術を教える「町民先生」などキャリアアップイベントの開催。

今後の考察

- 就労のサポートのみならず、業務の紹介を具体的に実施している事例。

出典：一般社団法人ナギカラ <http://nagikara.jp/>

34

連携型中高一貫教育プロジェクト（大阪府豊能郡） 大阪府立能勢高等学校

職業体験・キャリア教育を通じて、
児童生徒の郷土愛を育む

概要

- 山間地域に位置する能勢町は近年、少子高齢化が進み「消滅可能性都市」にもランキングしている。
- そのような状況の中、小学校・中学校が統廃合となり、能勢高校は平成16年度から大阪府公立高校初の連携型中高一貫教育制度をスタート、同時に総合学科に改編する。
＜能勢町＞人口約1万399人、高齢化率約36.8%の中山間地域（平成29年10月現在）
＜能勢高校＞1学年80人の小規模校
- 少人数指導を軸にきめ細かい丁寧な教育やキャリア教育にも力を入れている。



類似点・参考点

- 年度当初に能勢町の全教職員が顔合わせをし、「能勢町小中高一貫教育総会」において活動の共通認識を図る。
- 小学生を農場に招いての交流授業、中高教員の相互派遣による授業の実施。
- 中学生の高校見学、授業体験、クラブ体験、中高合同授業の実施による小中高の連携を体系化。
- 国際的な取組としては、オーストラリア交流研修やゲストスピーカー招致による「総合的学習」の実施。
- 雇用拡大プロセスとして、地域の専門家から食品製造や食品加工の指導。
- 平成27年3月、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール」に認定され、今後一層の国際協力・地域貢献を目指す生徒の育成に取り組む。
- まちぐるみ応援団「能勢高校を応援する会」の結成により、地域との信頼関係を構築する新たな基盤ができた。
- 留学生の受け入れや、町内福祉施設とのボランティア活動の連携など町内活性化につながった。

今後の考察

- 統廃合を契機に新たな教育プログラムを組成。学校と地域の関係性を重視した取組内容。

出典：大阪府立能勢高等学校 <http://www.nose-highschool.ed.jp/bunkou/>
参考：地域づくり2015年6月号

35

子どもたちと企業の商品開発プロジェクト（広島市三原市） 糸崎小学校×八天堂・幸崎中学校×KOH（株）

職業体験・キャリア教育を通じて、
児童生徒の郷土愛を育む

概要

- 平成28年、市立糸崎小学校5・6年生が、地元企業「八天堂」と共同でスイーツの新たな特産品を開発し商品化。
- 平成29年、幸崎中学校がKOH（株）ラーメン康との連携により、“三原らしいラーメン”を開発。



類似点・参考点

- 新たな地域特産物を企画するにあたり、工場を見学。
- 企画に向けた授業の中にICTを取り入れることとし、電子黒板やタブレットを使った授業を行う。
- アイデア創出授業では、地域特産物の企画・開発に向けアイデアを企画書にまとめ、生徒一人ひとりが具体的なイメージを描きグループで共有。プレゼンテーション資料作成、練習を経て、新たな地域特産物の企画を各班ごとにプレゼンテーション、それぞれ1商品を開発。
- 実際の商品づくりの工程を学び、八天堂カフェリエの体験工房で実際の商品づくりに挑戦。
- 新しいクリームパン「チョコバナナパン」、「浮城（うきしろ）三原ラーメン」を一般のお客様へお披露目、商品の販売体験実習を行う。

今後の考察

- 子どもたちの自発的な行動を促し、行政・企業が一体となって実現した取組。
- アイデア企画からプレゼンに至るまで単純な職業体験とは異なる経験を経て、子どもたちの中に「未来の三原市を作るのは僕たち」「三原を大切にしていきたい」という気持ちが芽生えたことは大きな成果。

出典：瀬戸内元気都市みはら！地方創生×キャリア教育2016・2017 <https://mihara-city.jimdo.com/>

36

概要

- 豊島区が運営する主な利用対象者を中高生等とした児童厚生施設（児童館）。
- 中高生の主体性を尊重し、中高生の意見を大切にしながら、地域における社会福祉の増進に寄与することを目的とし、学生たちが可能性を自ら引き出し、生き活きと活動できる場を提供している。
- 日常的に、中高生が仲間や個人で自主的・自発的にジャンプを利用する中で、社会性を育み、健やかな成長を手助けしている。



類似点・参考点

- 池袋地区・長崎地区に設置。利用は無料だが、初回利用時に登録が必要。
- 施設には学習室、クッキングスタジオ、トレーニングコーナー、音楽スタジオ等、中高生世代の子どものやりたいことが叶うような設備を整えている。
- ネグレクトや虐待、不登校等の課題を抱えた子どもでも来所しやすい雰囲気、環境を整える。
- 職員以外に弁護士やプロの音楽家、塾の講師等がボランティアとして子どもたちに関わっている。

今後の考察

- 学校以外の体験ができる場所をつくることから、居場所のない子どもたちの目的や意欲を育てることに貢献する場所。
- プロのサポートもあり、子どもたちの可能性を伸ばす環境づくりに力を入れている事例。

出典：豊島区 <https://www.city.toshima.lg.jp/kosodate/kodomowakamono/1803221119.html>
東京都社会福祉協議会 福祉実践事例ポータルサイト <http://fukushi-portal.tokyo/archives/217/>

37

「自分」を大切にできる居場所「フリースペースえん」（神奈川県川崎市） 川崎区役所／NPO法人フリースペースたまりば

概要

- 平成15年7月、川崎市が「川崎市子どもの権利に関する条例」にもとづき、NPO法人フリースペースたまりばとの協働事業として日本でも珍しい公設民営の「フリースペースえん」を設立。
- 生涯学習（社会教育）の視点にたって、学校外で多様に育ち・学び場としてスタートする。



類似点・参考点

- 学校の中に自分の居場所を見出せない子どもや若者たちが安心して過ごせる居場所の開設と運営。
- 利用するには「NPO法人フリースペースたまりば」へ申込み、説明・面談後、体験期間（約2週間）をして登録、入会となる。
- 不登校・ひきこもりなどで悩む本人や家族等の相談に乗り、学校外の多様な学び・生き方を支援する活動を行い、保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会および情報の提供・発信活動も行う。

今後の考察

- 押し付けになるプログラムが一切なく、子どもたちは自分のペースで選択し、自由に行動しながら自発性・協同性が自然に身についていくことをサポートする取組。

出典：川崎市夢パーク <http://www.yumepark.net/>
NPO法人フリースペースたまりば <http://www.tamariba.org/>

38

まち全体が学びと育ちの場（京都府京都市） みやこ子ども土曜塾

「達人から学べ！」町の達人と
町民の交流の場づくり

概要

- 「まち全体を学びと育ちの場に」を目標に、「みやこ子ども土曜塾」を開催。
- 土曜日ははじめ学校休業日に京都ならではの多様な学習資源を生かしたさまざまな学びの場を提供し、子どもたちを育んでいこうという市民ぐるみの取組。



類似点・参考点

- 企業や大学、博物館、神社仏閣、NPO法人などの市民ボランティアの方々による伝統芸能、芸術、スポーツ自然活動などさまざまな体験活動を企画・実施。
- 土・日曜日、または学校休業日に行われる子どもたちを対象とした取組の情報発信を希望する団体を募集。
- 情報誌「GOGO土曜塾」を作成し、京都市内の幼稚園、保育所、学校を通じ、子どもたちや保護者向けにPR配布（市役所、区役所・支所、図書館、郵便局等にも設置）、デジタルブックもHPに掲載。

今後の考察

- 子どもを主体としたバリエーションに富んだ体験学習が充実。
- 広報スタイルを、子育て世代の利用先へ配置するなどうまくPRできており、京都の様々な建物を利用したイベントも多く企画され、地域にふれあう機会を盛り込んだ取組事例。

出典：みやこ子ども土曜塾 <https://www.doyo-juku.com/>

39

まちがまるごとキャンパス「大ナゴヤ大学」（愛知県名古屋市） 特定非営利活動法人 大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク

「達人から学べ！」町の達人と
町民の交流の場づくり

概要

- 特定非営利活動法人シブヤ大学が「まちがまるごとキャンパス」というコンセプトをはじめ、具体的な活動や組織運営など、それぞれの地域で培った運営のノウハウをお互いに共有し相互支援を行う取組。
- 大ナゴヤ大学は、平成21年9月に一般市民の寄付金により開校。
- 学校教育法上で定められた正規の大学ではなく、生涯学習を推進する特定非営利活動法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワークが運営。



類似点・参考点

- 大ナゴヤ大学への参加形態は多様で、授業やドリンクス（飲み物・軽食つきの意見交換会）、ゼミ、サークルといった多岐にわたるキャンパスライフを楽しむことが可能。
- ボランティアスタッフやサポーターとして参加することも可能。
- 授業に参加するにはウェブでの学生登録（無料）が必要。

今後の考察

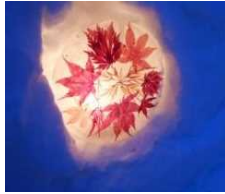
- まちの多分野にわたる魅力発見が、ヒトやモノに関わりを持ち、まち全体が活性化につながるといった新しいまちづくりの形。
- 大ナゴヤ大学は、多くの団体・個人と協力しながら実現する為の「プラットフォーム」としての存在価値を見出すことを特長としている。

出典：特定非営利活動法人 大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク <http://dai-nagoya.univnet.jp/>

40

概要

- 清田区の冬の彩りであるアイスクャンドル・スノーキャンドルの取組。
- きよたまちづくり区民会議では、それぞれの取組の連携をはかり区全体の動きに広げていくことで、まちづくり活動の機運をさらに高め、魅力ある地域づくりを進めている。
- 最初は小さな規模であったが、年々キャンドルの作りや構成が豪華になり、とても見応えのある「まちの灯り」になり、見物に訪れる人も増えている。



類似点・参考点

- 清田区民会議では、各団体の情報を全体の情報として共有し、まちづくりに生かすことを目的としており、さまざまな視点から議論を重ね、各団体や区役所とともにまちづくりを進めている。
- 清田区の冬の彩りであるアイスクャンドル・スノーキャンドルも、清田区の豊かな自然や四季を感じるまちづくり活動の一つとして区全体に広がっている取組として続けられている。

今後の考察

- 清田区誕生10周年を契機に、各地区町内会連合会、さまざまな団体の代表者など区民自身がまちづくりのために会議を結成した。各団体の情報を全体の情報として共有し、子どもから大人までが町ぐるみで楽しむことが出来る取組として10年続いている好事例。

出典：清田区役所 http://www.city.sapporo.jp/kiyota/chiiki-shinko/kumin_kaigi/candle.html

概要

- 平成18年に、沿線ボランティア団体のネットワーク化を推進するため、わたらせ渓谷鐵道市民協議会が発足。
- 鉄道の依頼を受け、駅周辺の観光案内やPR活動、各駅で行われるイベントの手伝いなど活動の幅を広げている。
- 駅のイルミネーションが評判を呼び、年を追うごとに開催駅数も増加、今では全駅に明りが灯る。



上神梅駅は、平成20年に、国の登録有形文化財に登録。
大正から昭和初期の風情がそのまま残る

類似点・参考点

- わたらせ渓谷鐵に設置された全17駅のうち、12は無人駅。1日の運行本数は多くないが、通勤や通学に利用され、小さな旅を楽しむ観光客にも親しまれている。
- 点灯期間中の土日には、通常運行のほかに、1日に2本のイルミネーション号が走行。この列車は、駅に近づくと車内灯を消して速度を落とし、点灯の様子をゆっくり見られるよう配慮する、ローカル線ならではの企画が魅力。
- 地域住民と鉄道会社の作り上げた光景を見るために、去年はイルミネーション号だけで多数の乗車があった。

今後の考察

- イルミネーションは冬の閑散期の鉄道利用を考慮した試みではあるが、日ごろからトイレ掃除や草むしりなど、駅的美観を整える活動を自主的にしている沿線ボランティア団体の力が大きい。
- 会員の高齢化と、地域の若い人の減少という問題も抱えているが、沿線の地元企業に声掛けをするなど取組を維持していく活動が続けられている。

出典：みどり市産業観光部観光課 <http://www.city.midori.gunma.jp/www/contents/1000000001017/>
Yohoo！ライフマガジン <https://lifemagazine.yahoo.co.jp/articles/10336>

城下町路地から新たな観光スポットへ（兵庫県洲本市） 城下町洲本再生委員会

空き家ワンコインカフェ

概要

- 住民の高齢化に伴い空き家が増加していた洲本市で、城下町洲本再生委員会会長が、路地に活気を呼び戻したいという思いから、平成24年に兵庫県が実施する「高齢者生活支援ビジネス離陸応援事業」（現在の事業名は「高齢者コミュニティ・ビジネス離陸応援事業」）に応募し、補助金を活用した「こみち食堂」を開店する。
- 店は地元婦人会によって運営、築100年以上の古民家を再生利用。

類似点・参考点

- 「こみち食堂」では、地域の単身世帯の見守り活動を兼ねた高齢者への食事提供も行っている。
- 城下町洲本再生委員会の活動は「こみち食堂」にとどまらず、「こみち食堂」がある路地を「洲本レトロこみち」と名付けて、地域の活性化に取り組んでいる。
- 地道なまちづくりの努力が結実し、平成28年には「レトロこみち協同組合」として法人化し、「洲本レトロこみち」は平成30年現在、約30店舗が営業する商店街へと発展している。
- 休日には、ガイドブックを手にした観光客が通りにあふれ、高齢化し閑散とした路地だった場所が、新たな観光スポットとして再生している。



今後の考察

- この取組は、空き家の再生にとどまらず、利用高齢者の新しい働き方の創出、高齢者の見守り活動に貢献した事例。
- 再生委員会と不動産業者がコラボし、「スモレトロ不動産」というプロジェクトを企画、空き物件の見学ツアーやイベント等を開催。この事業により、北海道、大阪府など他府県から「洲本レトロこみち」へ転入される方も多く、若い世代が転入することで多世代の交流が進み、高齢化していたコミュニティが多世代の共生によって大きく活性化している。

出典：内閣府 平成30年版高齢社会白書（全体版） 第1章 高齢化の状況（第3節トピックス4） https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/pdf/1s3s_03.pdf

43

生活支援サポーター事業（大阪府高槻市） 社会福祉法人高槻市社会福祉協議会

ライフサポート強化事業

概要

- 平成23年より、高齢者の「日常のちょっとした困りごと」を解消する暮らしのサポートに取り組む。
- 生活支援サポーターとして登録した市民が、善意で高齢者の生活のお手伝いをする仕組みで、この事業は平成23年度に始まり、現在140余名が登録している。
- 介護保険や高齢者福祉制度などでは対応できない、買い物付き添いや通院付き添いなどサービスにつながるまでの短時間の支援を行っている。

類似点・参考点

- 支援を受けられる対象は、高槻市内在住でおおむね65歳以上の方。
- ボランティアによる活動の為、利用は無料。（活動にかかる交通費などの実費は負担）
- 利用できるのは、平日：午前9時～午後5時（土日祝は休み）、サポーターの活動は1回2時間程度。
- サポート内容は、通院や外出の付き添い・買い物の同行、代行・掃除（お風呂掃除、換気扇の掃除、部屋の片付け、季節の衣類整理など）・電球の交換・日常生活ゴミ出し（短期間）、大型ゴミ出し・解体のお手伝いなど。
- 高齢者を支えるサポーターを募集し、養成講座を開催。
- サポーターは、その活動の時間数に応じポイントが付与され、1年間で貯まったポイントは10ポイントで商品券1枚と交換できる仕組みとなっている。（上限10,000円まで）



今後の考察

- 介護保険サービスにも制限があり、制度狭間で困っている高齢者の支援として役立っている。
- サポーターについても、短時間活動のため無理がなく労働時間が明確で、ポイント還元といった仕組みにより相互利用しやすい形となっている。

出典：社会福祉法人 高槻市社会福祉協議会 <http://ta-city-shakyo.com/seikatsu.html>

44

概要

- 日々の暮らしの中の「ちょっとした困りごと」を、利用者とそよかぜさん(協力者)が共に行う活動。
- 高齢者だけでなく、障がい者や、介護をしている方、子育て真っ最中のお母さんなど、いわゆる「ちょっと困っている方々」なら幅広く対象となる。



類似点・参考点

- 東広島市社会福祉協議会地域福祉課または近くの支所へ電話で依頼、職員が訪問し困りごとの内容を聞き、後日「そよかぜさん」が訪問して一緒に活動を行う。
- そよかぜさんの活動費/1時間あたり 600円(1回の活動は2時間まで)で、この事業は利用料(「利用者」負担)300円と共同募金からの300円で実施している。

今後の考察

- この事業は共同募金からの補助があり、利用者は定額で生活の困りごとを解消できるというメリットがあるが、そよかぜさんの日程調整ができないときなどは活動提供ができないこともある。
- 安価な反面、素早い対応ができないところが検討課題である。

出典: 社会福祉法人 東広島市社会福祉協議会 <https://www.higashihiroshimashi-syakyo.jp/soyokazenet/index.html#snet1>

高齢者の外出支援「シルバーエミカ」 三重県津市

概要

- マイナンバーカードと公共交通機関という、マイキープラットフォームを利用した高齢者の外出支援を、津市が全国に先駆けて独自に取り組む。
- 津市内在住の65歳以上の高齢者を対象に、バスの乗車運賃として利用可能な乗車ポイント(1ポイント=1円)を、年間2,000ポイントを上限に付与したICカードを無償交付するもの。



類似点・参考点

- 津市内を運行している津市コミュニティバス(全24路線)ではシルバーエミカの提示により、運賃が無料となる。
- ポイントを使い切ったあとも現金を入金(チャージ)することで、引き続き利用可能。
- 交付を受けた年の翌年度から、津市高齢福祉課、各総合支所市民福祉課にて2,000ポイントを上限に乗車ポイントを毎年度チャージしてもらえる。
- ICカードのシステム改修には、相当な期間と1億円近い費用がかかるという問題があったが、国の「地域経済応援ポイント導入による好循環拡大プロジェクト」と連携させることにより実施することができた。

今後の考察

- この事業は、高齢者の日常生活における移動を支援し、外出の機会を拡大させることにより、高齢者の健康・生きがいづくりを促すことにつながると考えられている。
- また、全国的にマイナンバーカードの取得率の向上が課題となっている中、高齢者のマイナンバーカード取得促進に大きく貢献した事例。

出典: 三重県津市 <http://www.info.city.tsu.mie.jp/www/contents/1496723989180/index.html>

びわ湖高島レンタサイクル（滋賀県高島市） 公益法人びわ湖高島観光協会

揖斐池田サイクルトレイン
日本一への挑戦プロジェクト

概要

- 一般タイプ・スポーツタイプのレンタサイクルを運営。
- J R湖西線の4つの駅構内観光案内所とびわ湖高島観光協会に窓口を設置、利用方法も2種類から選ぶことができる。



類似点・参考点

- 利用希望日の2日前（午前中）までに予約が必要であり、町内レンタサイクル（貸出窓口と同じ窓口に返却）と乗り捨てレンタサイクル（追加料金で他の窓口に乗り捨て）が選択可能。
- 期間限定で紅葉を楽しめるお得なBlueGreenサイクルプラン実施。（期間：平成30年9月25日～12月24日）
料金：一般タイプのレンタル4時間500円（税込）（通常700円）
平日9:00～17:00の間の利用に限る／予約不可（常時7台設置有）
特典：BlueGreenオリジナル巾着・セコイヤチョコレート1本プレゼント、クーポンブック付き
条件：J R新旭駅前（高島市観光物産プラザ）発着（他所への乗捨不可）

今後の考察

- 観光エリアの経路に沿ったレンタサイクル設置と、低額な料金追加（300円）で乗り捨て出来るシステムは利便性があり、手軽な観光手段の一つとしては有効。

出典：びわ湖高島レンタサイクル 公益社団法人 びわ湖高島観光協会 <https://takashima-kanko.jp/>

47

レンタサイクルステーション（青森県） 津軽鉄道株式会社

揖斐池田サイクルトレイン
日本一への挑戦プロジェクト

概要

- 無料レンタサイクル実施と有料レンタルのサイクルステーションを運営。
- 無料は毎年4月初旬から11月中旬までの期間限定、4つの駅舎で一般タイプを貸出するサービスを実施している。



類似点・参考点

- 津軽鉄道レンタサイクルステーションでは、有料でロードバイク・クロスバイクを貸出。
- 「有料レンタサイクル」の利用促進のため、サイクリングで楽しんでいるところをSNSに投稿するだけで1日目の料金が無料となる「レンタサイクルSNS投稿キャンペーン」を実施。
- 鉄道を含めた各種団体の構成による青森県サイクル・ツーリズム推進協議会が、「青森県をサイクリング観光のメッカに！」をスローガンに、受入環境整備・国内外からの誘客促進・情報発信・県内における普及啓発活動を取組の柱に掲げ、青森県のサイクリングを楽しんでもらえるよう活動している。
- 青森サイクリング情報総合案内サイト「AOMORI CYCLING」では、お勧めのサイクリングコース及びその周辺の魅力を紹介。サイクリスト応援宿泊プランとして、青森県内にある3つの宿泊施設にて1泊2食付きの宿泊＋レンタルバイクがセットになったサイクリングプランを提供。

今後の考察

- 青森県内のサイクリスト、サイクルショップ、大会運営者など県内の自転車愛好家、運輸交通事業者、宿泊事業者、観光関係団体、地域づくり団体、金融機関、大学など地域がひとつになり、青森県が国内外に誇る観光資源を活かして、青森県をゆっくり・のんびりと自転車で巡り楽しむ周遊・滞在型観光＝「サイクル・ツーリズム」を確立した事例。

出典：津軽鉄道 <http://tsutetsu.com/rentacicle.html>
津軽鉄道レンタサイクルステーション http://tsutetsu.com/rental_cycle_station.html
青森サイクリング情報総合案内サイト「AOMORI CYCLING」 <https://aomori-cycling.com/>

48

概要

- 自宅などから乗ってきた自転車を電車内に無料にて持ち込めるだけでなく、返却は貸出駅と同一に限られるが中央前橋駅・大胡駅・赤城駅・西桐生駅では無料で自転車を貸し出している。



類似点・参考点

- 平日はサイクルトレインの発車時間設定があり 終電まで運行。土曜・日曜・祝祭日(春・夏・冬休み期間中)は終日全電車が実施。地元ではすっかり定着し、年間4万台以上の利用がある。
- 都市魅力アップ共創（民間協働）推進事業として、「前橋南ロータリークラブ」「大和リース株式会社群馬支店」「前橋市」の協働で、前橋市内、赤城山、利根川周辺を走行するサイクリストに向けたおもてなしスポット整備事業「まえばしサイクルオアシス」を実施、サイクルトレインを利用した赤城南面の観光スポットを巡るエコ旅サイクリングコースを紹介。

今後の考察

- 早い時間からの利用が可能であること、降乗車率の高い駅への自転車設置、事前に申請することなく必要に応じて無料で自転車を利用できる利便性がサイクルトレイン利用の定着につながったと考えられる。

出典：前橋市 <http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/188/189/191/p019153.html>

49

概要

- 行政の助成で大自然の魅力を世界に動画配信、インターネットを活かして発信に力を入れる。
- 一般社団法人山陰インバウンド機構によるWebサイトを8か国語に翻訳し、多くの訪日外国人観光客に正確な情報を配信、ターゲットにしっかりと期待と安心感を抱かせている。



類似点・参考点

- YouTubeにアップしている動画は人気を博しており、20日間で200万回再生された山陰PR動画の美しさが海外から絶賛されている。
- 平成30年度には旅行博出展やFAMツアーなどを通し、「縁の道～山陰～」のプロモーションを行う。
- 外国人観光客誘致にかかるパンフレット作成や先進地視察、免税店やwi-fiの整備などの費用を行政が助成。（限度額は20～50万・補助率は1/2）
- 台湾、香港、中国及び東南アジアの外国人観光客に向けてツアーを行う旅行会社に貸切バス1台につき5万円の助成を行う。

今後の考察

- 行政のバックアップによる支援のみならず、一般社団法人山陰インバウンド機構の公式Webサイトが大きく貢献。
- Web上から誰もが場所・時間を選ばずにガイドブックや、興味のある場所の活きた情報などを入手できることが海外からの観光誘致に成功させた要因となっている。

出典：一般社団法人山陰インバウンド機構 <https://www.sanin-tourism.com/>

50

「雪」×「歴史」×「食」を武器にインバウンド誘致 長野県

国内・海外観光プロモーション事業

概要

- 観光資源が豊かな長野県は、平成10年の冬季五輪の開催地として広く知られていることもあり、早くから観光案内所や案内表示の英語対応など環境の整備を行い、外国人にとって安心して旅行の目的地に設定できる場所づくりに取り組んでいる。



類似点・参考点

- カナダ人やオーストラリア人などの外国人インストラクターを積極的に採用。また、定年退職した海外経験のあるシニアが訪日外国人ガイドを行う取組も実施している。
- ネイティブスピーカーを雇用することで分かりやすい外国語対応を行い、言語の壁を取り払うことで不安要素をなくし安心して観光を楽しむことができる環境を整える。
- インスタ映えする多くの歴史的・文化的スポットにも力を入れ、Webサイトやパンフレットの多言語対応、観光地のライブ配信も行っている。
- 東京からのアクセスは新幹線で2～3時間程度で、バスも比較的本数が多く価格を抑えることができ、交通業界とのしっかりとした連携でアクセス利便性を向上、結果としてインバウンド誘致の成功につながっている。

今後の考察

- 世界での認知度と地域資源を活かすことに加え、人的資源の活用や歴史資産をうまくPRしていることで根強い人気を維持できている取組。

出典：インバウンドNOW(運営会社：全日空商事株式会社、株式会社エスキュービズム) <https://inboundnow.jp/media/case/763/>
長野県観光機構 さわやか信州旅.net <https://www.nagano-tabi.net/>

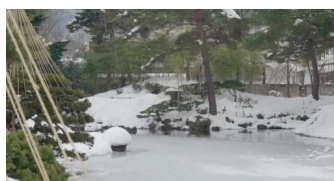
51

日本の優れた地域資源と伝統文化のPR 福島県／県内民放4局

国内・海外観光プロモーション事業

概要

- 福島県と県内民放4局（福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島）が、インバウンド誘客を目的としたPR動画を作成。
- 歴史、文化、大自然、食、アウトドアなど優れた地域資源に溢れている福島県から東京都や栃木県、茨城県の4都県を結ぶ広域観光ルート「ダイヤモンドルート」を紹介した動画を平成29年2月から配信。



類似点・参考点

- 美しい日本の自然と、伝統文化、歴史ある人々の暮らしを見事に融合させ、躍動感のあるカメラワークやドローンでの撮影で、魅力を最大限引き出している。
- 特に訪日外国人に人気の「サムライ」を打ち出した作りとなっており、未だに海外で高い人気を誇る「サムライ」というコンテンツを「相馬野馬追」、「剣の演舞」、「会津まつり藩公行列」などの映像で魅力的に紹介。全編通してセリフはなく、美しい映像と雄大な音楽のみで魅せる作りとなっている。

今後の考察

- 東京～大阪の「ゴールデンルート」は訪日外国人からも広く人気を集めているが、現状、なかなか東北まで外国人の足が伸びないという課題がある。
- 東北全体にまで多くの外国人が訪れる取組を深化させるために、「ダイヤモンドルート」周遊ルートで旅行の計画をしてもらえるよう、旅行会社への働きかけを続けている。

出典：ダイヤモンドルート <http://diamondroutejapan.com/>
livedoorNEWS <http://news.livedoor.com/article/detail/14287420/>

52

概要

- 瀬戸内の美しい島々を舞台に高速道路を規制して行う日本唯一のサイクリング大会を2年に1度開催。
- 世界有数のサイクリングコースを使った国際的なファンライドイベントであり、国内外から7,000名が参加する国際的な大会。穏やかな海に、たくさんの小さな島々が浮かぶ風光明媚な瀬戸内海を駆け抜けるサイクリングロードは、「サイクリストの聖地」として世界に広く知られている。
- スタイルはレースではなく、サイクリングを楽しむ走行イベント。



類似点・参考点

- 瀬戸内しまなみ海道の魅力を堪能できる様々なコースを設定。
- 航空便「ANAの旅作」やJRサイクルトレイン「サイクリングしまなみ号」運行（予約制・有料）、自転車宅送サービス「カンガルー自転車イベント便」など、各地から参加しやすい交通環境が整っている。

今後の考察

- このイベントによって交通環境の整備、宿泊施設の増設、観光客の誘致など大きな経済効果を生むとともに、道の駅等にあるレンタサイクルターミナルでのレンタサイクル利用が増加し、地域活性化に大きく貢献する取組。

出典：サイクリングしまなみ2018実行委員会 <http://cycling-shimanami.jp/>
ANA・ANAセールス https://www.ana.co.jp/ja/jp/domtour/chushikoku/dp_cycling-shimanami/?cid=TUPcycling_banner2018050001

53

伊勢志摩サイクリングフェスティバル（三重県）

伊勢志摩サイクリングフェスティバル実行委員会（一般社団法人 志摩スポーツコミッション内）
構成団体：三重県志摩市・志摩市商工会・近畿日本ツーリスト（株）・近畿日本鉄道・その他

概要

- タイムを競うレースではないサイクリングイベント。コース上は一般車両の交通規制をすることではなく、各ポイントに制限時間を設けて実施。
- 志摩地区の観光名所である志摩スペイン村をスタート／ゴールとして、エリア内の名所や風光明媚なスポット、海岸線など自転車専用道＋一般道の約40キロのコースをゆったりと走り、6時間ほどかけてめぐるファンライドイベント。



類似点・参考点

- 第1回「伊勢志摩サイクリングフェスティバル」には名古屋や京阪エリアを中心に全国からエントリーがあり、自転車を折りたたまずに輪行できるサイクルトレインの運行や往復交通費と宿泊代を割安セットした特別プランの販売により、参加者の67.6%が大会後に宿泊し、その大半が志摩市内の温泉などに泊まるという効果をもたらした。
- コース途中に設けられたエイドステーションやゴール後に提供する地域の恵み（あこや餅、さわ餅、てこね寿司などの地元名物）を充実させ、スタート前やゴール後に行なわれるショーや表彰式などのメニューも盛り上げるなど「おもてなし」やエンタテインメントの要素をさらに強め、より楽しいイベントとなっている。

今後の考察

- 数多くの団体の支援を受け、また近畿鉄道のサイクルトレインを利用したプランを打ち出すなど観光振興としても大きく貢献。養老鉄道との連携を検討するに際し、参考にできる部分は多い。

出典：伊勢志摩サイクリングフェスティバル実行委員会 <http://iseshima-cycling.jp/index.html>
KNT-CTホールディングス株式会社 <http://www.kntcthd.co.jp/chiiki/result/iseshima.html>

54

概要

- 株式会社河北新報社とヤフー株式会社が東日本大震災の復興支援、および震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベントを開催。（10年継続開催を目標）
- レースではなくサイクリングを楽しむファンライドイベントで、東北の風景や食を堪能し、復興の様子を肌で感じられるコースを設定。
- 年間を通して東北の地に人が訪れることを願い、宮城県や東北における自転車を活用した観光の促進、サイクルツーリズムの推進を後押しし、地方創生と交流人口の拡大に貢献することを目指している。



類似点・参考点

- コースは沿岸地域を含み、三陸の雄大な自然の中を走りながら、被災地域の「今」を見て感じることでできる設計になっている。
- 自転車イベントを通じて、東北地方の復興のため「ツール・ド・東北基金」を設立し、東日本大震災の復興支援につながる自転車を活用した観光振興に使用。（サイクリングロードの整備、サイクルラックの設置やサイクリングマップの配布、サイクル環境の整備・充実など、自転車観光を通じた東北の地方創生を後押しする活動へ助成）

今後の考察

- 行政だけでは補えない復興への取組を、民間企業が主体となって広域にわたって支援している。風評被害などを払拭し、日本が元気になる力を生み出すイベント。

出典：ツール・ド・東北 <https://tourdetohoku.yahoo.co.jp/>

55

ふくい移住ナビ（福井県） 福井Uターンセンター（ふるさと福井移住定住促進機構）

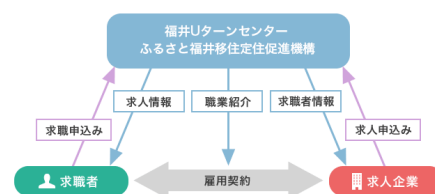
西美濃地域定住促進PR事業

概要

- 福井県が県外に進学した学生や社会人のU／Iターンを積極的に支援するため、福井Uターンセンター（ふるさと福井移住定住促進機構）を設置する。
- 福井県内事業所から受けた求人と、県外在住のUターン希望求職者の最適なマッチングを行い、仕事を紹介するほか、Uターン就職に関する求人・求職者の情報を定期的に提供。
- 福井市内、東京都、大阪、名古屋の4カ所に相談窓口を開設、専門の相談員が就職をサポートしている。



移住サポーターしくみ



類似点・参考点

- センターを利用し移住される方を対象に利用カードを発行、移住の準備段階から定住までに利用するレンタカーや引越、住居物件紹介、マイカーローンなどについて割引・特典を提供している。
- 企業の情報収集や企業との最初のコンタクトをセンターの専門アドバイザーが代行するので、遠距離求職活動が可能。
- 福井Uターン就職ネットでは、社会人・学生向けに求人情報提供や福井県内外で開催される移住や就職に関するイベントを紹介。

今後の考察

- 県外に住みながら就職活動が出来るため、時間や手間、費用の面からも希望者に寄り添い、広域にわたって就職・移住をサポートする取組事例。

出典：ふくい移住ナビ <https://www.fukui-ijunavi.jp/>
福井Uターン就職ネット <http://www.fukui-uturn.com/>

56

概要

- 仕事から住まいまで県内の市町村と連携し、U/Iターンをトータルサポート。
- 県外在住の方向けに、さまざまな特典のついた無料会員制度「ながさき移住倶楽部」の募集や、移住候補地を見学するための交通費を軽減できるよう「キャンピングカーによるラクラク移住先探し」というレンタルサポートも行っている。



類似点・参考点

- 各地で開催する移住相談会では、ながさき移住サポートセンター及び各市町の担当者が個別相談にのり、比較検討ができる形をとっている。就労希望者向けに企業相談会も実施。
- 長崎県内の各市町と連携し、移住情報・助成制度・空き家バンクの情報提供や、移住お試しぐらしが出来る「お試し住宅」を紹介。
- 「キャンピングカーによるラクラク移住先探し」では希望に沿った行程表を準備、基本料金は8,000円（税込）／日だが体験メニューに応じて最安3,000円（税込）／日まで値引きをしている。レンタカー会社の担当者が空港もしくは主要駅まで送迎、最長1週間までレンタル可能。

今後の考察

- 移住候補地に関する情報や条件が市町別に整理されており、充実した体制を整えている。
- 見学の移動でキャンピングカーを利用することで負担となる交通費を援助するという、新しい発想で移住サポートをしている点は全国でも珍しい。

出典：ながさき移住サポートセンター <http://nagasaki-iju.jp/>